

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	自転車等駐車場管理事業							担当部	環境交通部			
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系		担当課	交通防犯課				
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	交通防犯係				
	総合計画 分野別計画	主目的	2 環境交通		9 防犯・交通安全		3 交通安全意識を高める						
		副目的											
	予算区分	款	2		項	7		目	4		大	5 中 1	
	根拠法令・個別計画	小牧市自転車等の放置の防止等に関する条例											
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	各駅の市営自転車等駐車場の適切な管理と美観保持を通じて、自転車等駐車場の利用者が快適に利用できるようにする。											
	内容 (手段)	<p>間内、小牧口、小牧駅北・駅南、小牧原、味岡、田県神社前、桜井バス停、東田中、上末の各自転車等駐車場において、シルバー人材センターに清掃整理等の管理を委託し、定期的に長期放置された自転車等の撤去を行った。また、撤去した自転車の警察への盗難照会や防犯登録などの告示などを行った。</p> <p><平成24年度直接経費の内訳> (消耗品費) 12,618円 (印刷製本費) 40,950円 (電気料金) 675,501円 (水道料金) 55,016円 (修繕料) 110,250円 (役務費) 24,175円 (自転車等駐車場管理委託料) 12,838,332円 (自転車等駐車場設備保守管理委託料) 175,184円 (用地借上料) 1,370,332円 (下水道使用料) 9,042円</p> <p><平成25年度実績直接経費の内訳> (消耗品費) 150,000円 (印刷製本費) 50,000円 (電気料金) 826,000円 (水道料金) 38,000円 (修繕料) 408,000円 (役務費) 235,000円 (自転車等駐車場管理委託料) 12,544,000円 (自転車等駐車場設備保守管理委託料) 106,000円 (用地借上料) 1,409,000円 (下水道使用料) 18,000円</p>											
	受益者負担	無											

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	16,287	15,369	15,312	15,784	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	533	533	533	533
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	16,820	15,902	15,845	16,317		
	対前年比	%		94.5	99.6	102.9		
財源	一般財源	千円	16,820	15,902	15,845	16,317		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業 績	活動指標名		単位	H22	H23	H24	H25
	収容可能台数	台	目標	2,693	2,743	2,743	2,768
			実績	2,693	2,743	2,768	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
	成果指標名		単位	H22	H23	H24	H25
	自転車の処分台数	台	目標	—	—	—	—
			実績	924	931	863	
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成24年度の実施結果		事業の達成状況		
	平成25年度の改善内容	事業実施における課題		利用者側にも、自分たちが利用しやすい駐車場であるように、マナーの向上を呼びかけるとともに、長期間放置されるような自転車を早期に発見・整理をする必要がある。	
		事業を縮小・廃止したときの影響		駐車スペースでない、場内の通路などへ自転車が駐車されたり、長期間にわたり放置されるような自転車のために、本来の駐車スペースが失われるとともに、利用者のマナーが低下し、快適で利用しやすい駐車ができなくなるため、縮小や廃止はできない。	
		25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)		25年3月下旬に「中央道桃花台バス停自転車等駐車場」が加わり、自転車等駐車場管理業務の範囲が、より広範囲となった。そのため、放置自転車の、より早期の発見と整理が必要となる。また、利用者へのマナー向上の呼びかけも必要である。	
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)	
		判定理由	今後も高まるであろう自転車等駐車場の需要に対して、快適な環境づくりのため、マナーの向上や長期間にわたる放置自転車の処理対応などの改善が必要とされるため。		
26年度以降の改善案		自転車等の放置をしないように、また、利用者が利用しやすい駐車場であるように、年間を通し、マナーの向上を呼びかける啓発活動を行う。			

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。